年間第9週・月曜日 73. 隅の親石

年間第9週・月曜日

73. 隅の親石

- ー イエス・キリストは、生活の基をおくべき隅の親石である。私たちの存在は、キリストの弟子であることにより、全面的にその影響のもとにある。
- 一信仰は、私たちに光を与え、事物 や出来事の真の姿を分からせてくれる。
- ー キリスト者には、世の中の事柄に 対する独自の価値基準がある。

73.1 イエス・キリストは私たちの生命を築き上げるための隅の親石である。キリストの弟子であることは、 私たちの全存在に影響を与える 殺人の罪を犯すぶどう園丁のたとえ 話¹の中で、イエスは、救いの歴史 のすべてを要約しています。イエス は、イスラエルを、神が垣をめぐら し、ぶどうしぼり機を備えた選りす ぐりのぶどう畑にたとえています。 泥棒や野牛の動物たちからぶどう畑 を守るために、見張りを置く見張り やぐらを建てます。すでに預言され ているように、神はご自分の心のぶ どう畑 一ご自分の人々一の 世話を するために、可能な限りの手段で備 えないはずはありません²。 たとえ 話のぶどう園丁は、イスラエルの民 の指導者です。所有者は神で、ぶど う畑は神の民イスラエルです。

所有者は、ぶどう畑から当然受ける べきものを受けるために、召使いを 何度も送ったが、いつもひどい扱い を受けます。これは、預言者の使命 です。ついに、彼らが敬うと思っ て、最愛の息子を送りました。この たとえ話は、キリストの崇高無比の

子の身分(子性)に深くかかわって おり、イエス・キリストの神性を明 確に表しています。ぶどう園丁は、 彼を捕まえ、殺し、ぶどう畑から放 り出してしまいました。これは明ら かにエルサレムの城壁の外で起きた 磔刑を示しています³。 たとえ話の 中でご自分のことを間接的に述べら れている主は、大きな悲しみのうち に話されたに違いありません。主が 救いをもたらすためにやって来られ たまさにその人々から拒まれたから です。彼らはイエスを望まない。イ エスは、詩編の次の言葉で終えてい ます。「家を建てる者の退けた石が 隅の親石となった| 4。

イスラエルの指導者は、たとえ話の 明確な救世主的意味を理解し、それ が、彼らに向けられたものだと気づ きました。それで、イエスを逮捕し ようとしましたが、再び人々を恐れ たのです。 聖ペトロは、サンヘドリンの前に来 た時、イエスの言葉を思い出すので すが、その預言はすでにたとえ話の 中で成就されていました。「あなた がたもイスラエルの民全体も知って いただきたい。この人が良くなっ て、皆さんの前に立っているのは、 あなたがたが十字架につけて殺し、 神が死者の中から復活させられたあ のナザレの人、イエス・キリストの 名によるものです。この方こそ、 『あなたがた家を建てる者に捨てら

れたが、隅の親石となった石』です」 5. イエス・キリストはご自分を、建物全体を支え、土台となるかなめ石にされました。この石は、教会とすべての人間一人ひとりにとってなくてはならないものです。それなしでは建物は崩壊してしまうでしょう。

〈隅の親石〉は、商売、関心事、 愛、時間など、建物全体、私たちの 生活全体に影響を及ぼします。キリ

スト者の生活で、信仰の要求が及ば ない部分はありません。前もって予 定された数時間(例えば、祈る時、 または、宗教的な奉仕に参加する 時)だけ、または、特別の日だけ、 キリストの弟子ではありません。キ リスト者であることが要求する生活 の深い一致により、私たちの生活す べてはキリストに従うのです。だか らと言って、物事がそれぞれ特有の 本質を保つことを妨げるわけではあ りません。キリストに従うことは、 私たちの人格まさに奥底にまで影響 します。誰かが恋に夢中なら、この ことは、外見上どんなに些細に見え ることでも、その人の物事と出来事 の見方すべてに影響を与えます。愛 する人と共にいる時だけでなく、そ の人は通りを歩いている時でも仕事 をしている時でも、社会的な活動で とる態度においても影響を受けま す。キリスト者であることは、私た ちの存在の最も重要な特徴です。こ の特徴は、熱烈に愛し合う相思相愛

の恋人の愛よりも、私たちの生活に 比べることのできない大きな影響を 与えなければなりません。

キリストは、私たちの生活と全存在 の中心です。カシアヌスは次のよう に評しています。「後陣の丸天井を 描きたいと思う建築家を想像しま しょう。彼は、中心、要所から始 め、周辺全体を描かなければなりま せん。この確実なノルマで進めなが ら、次に、正確な周線と建物全体の デザインを見積もらなければなりま せん。このようにして、一つの点 が、堂々とした建物にとって、基本 的な鍵になります」 6。同じような やり方で、神は、私たちの考え、言 葉、行いにかかわる要です。私たち は、神とのつながりの中で自分の真 の存在を築きたいと望むべきです。

73.2 信仰は物事と出来事の真の現実を認めるための光を与える

キリストは自分に従う者の考え方や 生活様式に意味を与えてくださいま す。芸術作品や政治的要綱を判断し なければならない時、仕事の取引を する時や休日の計画を実行しなけれ ばならない時、もしキリスト者であ るという永続的で決定的な真実を無 視するならば、そういうことはキリ スト者として一貫した態度がとれて いないことになります。キリストに 忠実な弟子であれば、各々の事柄に 固有な自律性や法則、そして自由に 意見を述べることのできる問題が有 する広範囲の自由を尊重しますが、 経済や芸術、映画などのある一面の みを考えて、企画や作品を良いと判 断することはできません。もしその ような計画や出来事、あるいは作品 が神(の教え)に従属していなけれ ば、たとえ部分的には認めうる価値 があったとしても、最終的な評価は 一つ、すなわち否定的な評価しかあ りません。

取引を行う、あるいは仕事上のある ポストを受け入れるというような場 合、良いキリスト者なら、財政的に 好都合なものだけではなく、他の側 面も吟味するべきです。倫理の規範 に関して正当だろうか? 他の人々の ためになるだろうか、それとも害に なるだろうか? 良いキリスト信者な ら、そのような事業の提案や仕事が 社会に貢献する利点を評価しようと します。倫理的に間違っていたり、 あるいは少なくとも良い模範になら なかったり、他の特徴 - 例えば良 い収入を提供する - などがあるか もしれませんが、それが倫理的に正 しいもの、即ち、良い業務になる事 はありえません。ビジネスの機会が どんなに有利に見えても、倫理的に 正しくないなら、それは非常に悪い 仕事で、キリストに従う人なら誰も 従事しないはずです。

過ちは、芸術、科学、自由の立派な 外観に飾られて提示されます。しか し、信仰は真に過ちより有力でなければなりません。それは、善に見えるものの背後に隠され、良い学作品の別の形である、醜さを覆う表面の美しさに隠されている悪を見ることができるようにする力強い光です。すべての建物の隅の親石でなければならないのはキリストですから。

キリスト教信仰と全く矛盾なく、完 全に首尾一貫した生き方ができるよ うに、主に恩恵を願いましょう。そ うすれば、私たちは決して自分の信 仰が、これができない、そこには行 けないというように制限を加えるど ころか、物事や出来事の本当の姿を 知るための光であることがわかるで しょう。作品や考え方の全体像を見 抜くことができない人間の無知と高 慢、それに誰もが持っている情欲 を、悪魔は上手に協力させようとす ることを忘れてはなりません。キリ ストは、人間的なすべての物事の中 にある金を見定めるつぼです。たとえ、いくらか人目を引く善良さや美しさで外観を飾られていても、その教えを試す透明さに耐えられないものは、どれも偽りで当てになりません。

この生活の一致が私たちに与える基 準 - 私たち自身が主の忠実な弟子 であるということを、いつも分かっ ていること - を利用するなら、私 たちは、正しい人間の基準に導かれ ている人々が、行い、考えた多くの 良いことをともに収穫し、更にそれ をキリストの足もとに置くことがで きるでしょう。度々あることです が、信仰の光がなければ、私たちは ごまかされた腐敗を見定めことはで きないでしょう。このような働きの 多くは、必ず、何らかの善良で美し いところがあるからです。

識別したり判断したりするのに、十 分形成された規範を持ちたいと思う

なら、それを得る手段を用いる一 方、何をおいてもまず、神のみ旨を 行いたいと望む、正しい意向を持つ ことが必要です。これは、あまり学 問がなく平凡で、生まれつきの才能 はあまりないが、深いキリスト教信 仰を持つ、全く普通の単純な人々 が、なぜ、生じてくる様々なことを 賢く判断できる卓越した基準を持つ ことができるかということを説明し ています。反対に、教養の高い、優 れた知的能力のある人々が、時に は、悲しむべき正しい判断の欠如を 示し、最も初歩的な事柄で重大な間 違いをすることがあります。

生活の一致という常にキリスト教に 準じた生活をしていれば、確信を もって判断し、物事の真の人間的価 値を発見できます。このようにし て、私たちは、すべての尊い人間界 の現実の事柄を聖化し、それをキリ ストに捧げます。自分に問いましょ う。あらゆる状況で、信仰と召命に 一致した生活をしていますか? 大小にかかわらず、決心する時、他の何よりも、神が私たちに望まれることを心に留めていますか? 神が、私たちにもっときっぱりとキリスト教的に振舞うよう求めておられる具体的な点において見てみましょう。

73.1 キリスト者は、世間とのつながりに関して、独自の価値観を持っている

キリストである隅の親石の上に生活 を築くキリスト信者は、独特の個性、世の中とそこに生じることを持って生むいます。 世の見解を持って世間の世間ではいます。 が事の世間とはまず、物事常には大きないます。 はます。 が事がにほとれるといるといるにはなったといる。 もないより、教会を大いなものとし、一時期世の中で流行している価 値判断に何とかして合わせるように 見せかけたいという過度の望みを持 つように追い立てる、ある種の劣等 感を持つ人たちが出てきます」⁷。

こういうわけで、この世の活動に夢 中になると同様に、キリスト信者と して、祈り、秘跡に与り、日々の仕 事の聖化をとおして、神に夢中にな る必要があります。私たちは、世の 中で、毎日の普通の生活において、 粘り強い努力を惜しまず、その努力 を支える確固とした決心を持ったイ エスの忠実な弟子である必要があり ます。このようにして、私たちは、 聖パウロが、当時の異教徒の習慣に 合わせる危険があると初代のキリス ト者に警告した時、聖パウロが彼ら に与えた忠告「この世に倣ってはい けません」⁸を実行に移すことがで きるでしょう。順応するのを拒むこ とは、時には、私たちを流れに逆 らって漕ぐようにさせ、同時代の多 くの人々に誤解される危険を冒すこ

とがあります。キリスト者は、こね 粉の塊を発酵させるための隠れたパ ン種であることを忘れてはいけません。。

神は、創られた実在のすべてを照らし、その中に潜む真理をあらわにする光です。神は、灯台の光線が、航海者がどちらのコースに舵をとればよいかを導いてくれる灯台です。教会は、「人間の歴史全体の鍵、中心、目的は、主であり師であるキリストに見出されることを信じます」¹⁰。

ナザレのイエスは、すべての人の生活における隅の親石であり続けます。キリストのいない建物なら建てられても無駄になります。今日、る日のが、私たちの存在と世の中と人での見解と私たちの振舞い方になった影響を持つよう。私たちいるかどうか考えましょう。私たち

の行いをとおして、すべての人が実際に神を知り、キリストの教義に従い、キリストを愛するようになるために振舞うよう、努力しましょう。

(フランシスコ・フェルナンデス・ カルバハル『神との対話』)

¹ マルコ12:1-12

² イザヤ5:1-7参照

³ The Navarre Bible, note to Mark 12:1-12 and Matt21:33 -46参照

⁴ 詩編118:22

⁵ 使徒言行録, 4:10-11

⁶ Cassian, Conferences, 2 4

⁷ J.Orlandis, What is it to be a Catholic? Pamplona, 1 9 7 7

8 □-マ12:2

⁹ マタイ13:33参照

10 第2バチカン公会議,現代世界憲章,10

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-IX-getsu/ (2025/12/13)